

長野市長 荻原健司 様

中澤 美寿妃

令和5年度長野市語学研修生派遣 報告書

このたび、下記のとおり語学研修を修了しましたので、ご報告申し上げます。

【研修概要】

研修期間：2023年8月26日～12月27日

滞在場所：中国河北省石家荘市（石家荘学院）

研修内容：8～10月末 中国語を学ぶ授業を受講

11～12月末 現地学生の授業に参加し交流を深めるとともに、語学力向上をはかる

○日常生活における違い

【交通編】

車両は右側通行のため日本とは逆で、運転席も左側にある

クラクションは親指で鳴らしやすい仕組みになっており、頻繁に鳴らす

歩行者に向かって鳴らすことも普通である

→歩行者優先という概念はない、横断歩道においても車が先に横切るのは当たり前

歩行者が車をよけて駆け足で渡る感覚

数分に1回の地点に撮影用カメラがあり、車が通るとフラッシュをたいて写真を撮られる

→シートベルト着用の確認をしている

監視カメラが至る所についているわりには、交通ルールを厳格に守っている印象はなかった

バス：前乗り後ろ降り/QRコードをスキャンして乗車/現金での支払いは不可

石家荘市内に限り、毎週木曜日は無料運行（回数無制限）

木曜日はいつもより混雑する（高齢者には席を譲る文化は当たり前存在する）

地下鉄：スマホを使用する場合、専用アプリにチャージしタッチ決済/QRコードをスキャンして決済

事前に登録しておけば、顔認証でゲートを通ることも可能（写真参照→）

券売機で切符を購入することも可能（形状は薄いカードのようなもの）

改札前にX線検査があり、発火の可能性があるものや危険物は没収される

酒も開封済みに限り、発火の危険があると判断され没収される

モバイルバッテリーを所持している場合には、ワット数を確認されることがある

手荷物はX線検査、身体検査は金属探知機で検査を受ける

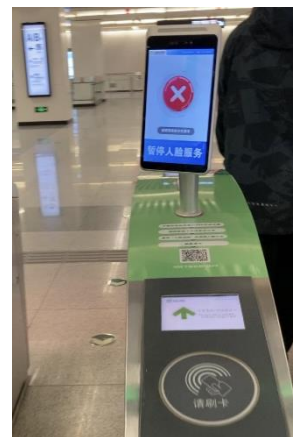
安全を守るための対策が厳格に講じられている

新幹線：現地の人はIDカード（日本のマイナンバーカードと同様）

外国人はパスポートをスキャンして乗車（事前にチケットは購入する）

チケットを購入する時は、身分証を提示したうえで購入する

車内には給湯器があり、持参した水筒に入れて飲む（紙コップ有）



日本と同様スナック等の車内販売がある/お弁当は希望者のみ申告制

タクシー：タクシー乗り場に常駐しているが、基本はアプリで配車手配をする
配車した場合、外観ではタクシーと分からない一般車種が来る
→アプリに車の色とナンバーが送られてくるため、自分で見つける
運転手は地図アプリを使用し、目的地まで客を運ぶ
車内に監視カメラがあるため、ドライブレコーダーは備えていない
運転手と会話することは当たり前（親しげに会話を楽しむ）



新幹線車内は日本同様きれい

【食事編】

一般的にカジュアルな店は、日本と比較した場合に非常に安価である
中国の味は大きく分けて4つあり、北京（濃い味付け）、上海（甘酸っぱい）、四川（辛さが刺激的）、
広東（あっさり）→「南甜北咸」…南方の人は甘口、北方の人は辛口を表す中国語
中国人は冷たい飲み物を摂取しないため、店で出されるのは白湯またはお茶
→油を多く使う料理が多いため、温かい飲み物で流し込む/冷たいものを飲む習慣がないとのこと
食器類は汚れていることがあるため、現地の人でさえお湯で1度軽く流す
少し高級なレストランに行くと、おしぼりや未開封のティッシュは使うと課金される仕組み（1つ40円ほど）

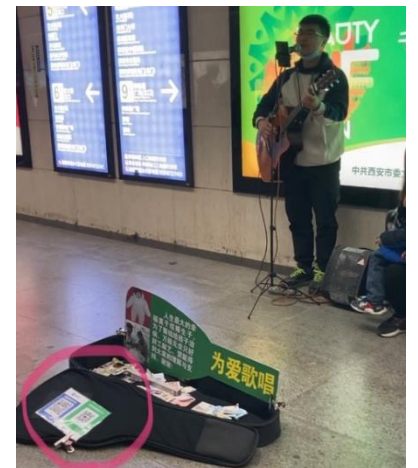
【ネットワーク環境】

基本的に日本からインストールしていったアプリは使用できない（Ex. Google/LINE/旧 Twitter/Instagram 等）
TikTok（抖音）は中国版が別に存在する/日本で使っているのは国際版
上記アプリを使うには、VPN（仮想プライベート・ネットワーク）という安全なデータ通信を実現する仕組みの
事前インストールが必要
日本で常用される LINE と同等に、We chat というアプリは、大抵の中国人が使用している（通話も無料）

【決済方法】

QRコードを読み取り決済する方法が主流/基本的に現金は使用しない
現金で支払った場合、お釣りを用意していない店もあるため注意
普通はアリペイ（支付宝）または We chat pay（微信）を使用する
道端で商売をしている移動販売の農家も上記の決済方法を使用している
路上ライブをしている人でさえ、QRコードを提示し決済方法としている
財布を持ち歩く、というよりはスマホが財布代わりになっている

（写真参照→）



【キャンパスライフ編】

現地学生寮：大学の敷地内にあり1部屋につき6～8名が共同生活を送る
洗濯機やシャワーは別の建物にあり、シャワーは15分/50円で利用する
洗濯機は靴など何を洗っているか不明なため、基本的には使用しないとのこと
クリーニングに出すことが多い
夏は冷房（有料）/冬は壁に備え付けられたオイルヒーターのお湯版を使用
ルームメイトと割り勘して冷暖房費を賄っている（スイッチのオンオフも相談する）
留学生寮：建物内にシャワー室、洗濯機を完備/いずれも無料で使用できる
日本のように湯船に浸かる文化はないため、全てシャワーのみ

シャワーは70度からスタートし、使っていくごとに温度が下がっていく（18度まで下がる）

→タンクにあるお湯を使っていくイメージ

1時間ほど経つと元の温度まで戻るが、生活に少し不自由がある

現地の学生寮と違い、キッチンや冷蔵庫が完備/自炊をすることが可能

（同居している東ティモールの学生は毎日自炊をしていた）

冷暖房は全て無料/自由に使用可能

トイレ：中国にある多くのトイレには、トイレトペーパー（以下、紙と記載）の備え付けがない

ティッシュは必需品として、常に持ち歩く必要がある

日本のような清潔さはなく、和式がほとんど

紙を流すことはできないため、使用済みの紙は個室にあるカゴに入れる必要がある

水洗が弱いことに起因する

【学食編】

大学内に学生食堂があり、3階建ての建物に多種多様なお店が並んでいる

1食あたり200円前後（国からの補助があるため安価）

支払いは全てQRコード決済（現金での支払いは不可）

果物の量り売りやおかずを数種類選んで、選んだものに応じて金額が決まる形式が人気

右の写真は、食堂内にある回転火鍋バイキングの店

スープを決めると自分の席に運ばれてくる→具材をレーンから自由に取り

具材が回転形式で流れてくるため、好きな串を取り、その種類と数に応じて金額が変わる

→きくらげ、うずらのたまご、まいたけ、しいたけ、麺など（デザートも有）

1人用の鍋のため、友人と行った場合には隣に座ってそれぞれの鍋を食べる



【授業編】

講義によって異なるが、黒板にスクリーンを貼り付け、スライドを投影

チョークを使って黒板に板書することもある

事前に登録したアプリを使って教師が教室内の学生に質問を送り、それぞれが答えて氏名と解答が投影される

正解すると加点され、上位3名のランキングを自動で出していた

授業中に飲食をする学生は数人いる印象（中にはトウモロコシをかじっている学生も）

タピオカミルクティーなどを買って授業に参加する学生が多い

出席を取る場合：白紙を回し、記名して出席を取る授業や点呼をとる形式もあった

【宗教編】

最も多いのは仏教であるが、今回はキリスト教について記述する

教会は石家荘市内に複数あり、日曜日にはミサが行われる

全て英語で行われ、電光掲示板に英語が映し出される

参加している教徒は、中国以外の国籍が多い印象

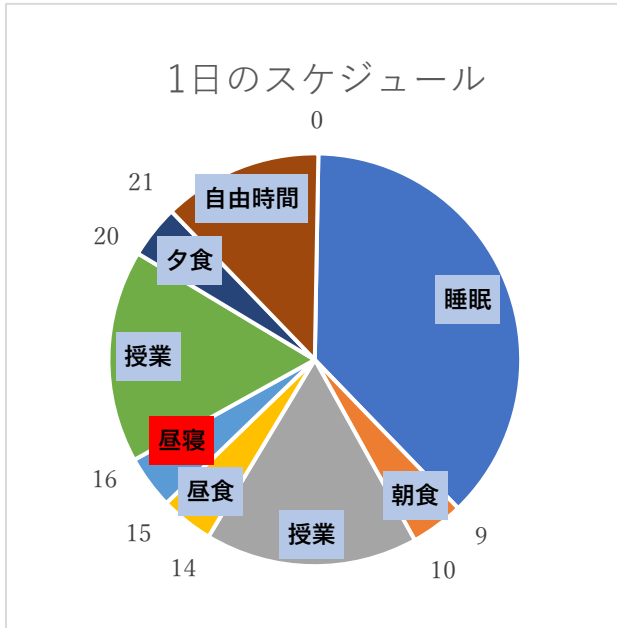
参加する場合、大学のミサ参加名簿に記名する必要がある

教会の構造は日本にある教会と同じ

（写真を参照→）



～現地の学生にインタビューしてみた！～



←ある学生の1日のスケジュールは左の円グラフの通り

日本との大きな違いは、「昼寝」をすること
他数名の学生に聞いた結果、全員が昼寝を習慣としていることがわかった
学生に限らず、教授も昼寝をすることがあるそう
午前授業と午後授業まで2時間の休憩が確保されている
(昼寝をすることが想定されている)

(学生の声)

昼寝によって頭がさえ、午後に向けてリフレッシュできる昔からの習慣で昼寝をする

～5名の日本語専攻の学生に質問～

Q.日本語を学ぶきっかけは何ですか？

アニメ (5名) / ドラマ (1名) アニメの中でも、名探偵コナン/罪悪の王冠がきっかけになった

Q.興味のある日本文化は何ですか？

富士山→雪化粧した富士山が太陽に照らされている様子が神秘的、写真で見た赤富士に感動した

日本のアニメ→内容が深く魅力的/興味を引きつける/世界に注目され、愛されている

日本文化の伝播と浸透を促進し、繁栄に寄与している

「ドラゴンボール」「ワンピース」「鉄拳」「ストリートファイター」どの作品も日本人の

アニメに対する独特な理解と革新を示している

素晴らしいストーリーと描写だけでなく、深いテーマと心情を持っており、深く感動する

和服文化→成人式に始まり、冠婚葬祭や剣道、弓道、茶道、伝統的な祝日を祝う時に着ている日本独特の文化

温泉→赤、青、黒、緑など色によって効能が異なり、健康促進にもなる

中国にも温泉施設はあるが、水着を着て入るので日本の温泉文化は興味深い

【所感】

大学在学時に1か月の語学留学に行って以来、5年ぶりの中国訪問でした。国土が広大なこともあり、前回滞在した北京とは街の雰囲気や人の様子が違っていました。国家間の問題はありますが、身の危険を感じることは1度もなく中国での生活を満喫することができました。

キャンパスライフについては、現地学生と毎日生活を送る中でかけがえのない絆がうまれました。「日中友好の懸け橋となる存在」という当初の目的を達成すべく、日々の生活で学生との交流を心掛けていましたが、自然と深い交流がうまれていきました。日本語に興味を持つ学生については、ほとんど全員がアニメに強い影響を受けていることに驚きました。アニメをきっかけに日本語を学び、主題歌や登場人物のセリフを完コピする学生もいるほどでした。今回、国境を越え日本を客観的に見ることで、改めて日本・長野の魅力に気づく機会になりました。共通点が多い日本と中国をつなげる懸け橋として、今後も尽力したいと考えております。

最後に、今回の研修参加にあたり、関わってくださったすべての皆様にご場をお借りし感謝申し上げます。4か月間、ありがとうございました。